



1年を通じて勤務した給与所得者の平均給与は433万円で、2年連続の減少となった。
《平均給与の推移》



国税庁民間給与実態統計調査より

あちこちから悲鳴が聞こえます。まず総合研究所のレポートは、「格差の拡大が社会的な不安や不満を増大させて人々の創意や努力へのモチベーションを弱め、経済の安定性を阻害するとともに、中間層のシフトダウンと貧困層の増加によって消費や住宅投資を減退させ、需要サイドからの成長力を引き下げた」と指摘しています。

新自由主義は経済成長に寄与するどころか格差を広げ、成長の足を引っ張ってきました。だから日本はこの20年成長できない国になってしまったのです。新自由主義に弊害があったというより、新自由主義そのものが弊害だったと言ひ換えるべきです。(参議院議員大門みきし 国会討論より)

収入は増えないのにものは値上がり

世界ではコロナ対策をする国が広がっているのに「消費税の減税は考えていない」という岸田政権。年金を下げておいて5千円を配ろうなどと言う発想が出てくる無責任さにもあきれました。(さすがに批判を受けて引込めたようですが)

コンビニのお弁当やパンも最大15%もの値上げだそうです。内部留保に税金をかけ、賃金こそ上げよう。消費税を5%に戻し、軍事費を福祉に！

7月は参議院選挙です。しっかりとものいえる共産党の躍進で政治を変えましょう！

桜のトンネルをくぐりながら考えたこと

今年の春は一気に花が咲いて本当に百花乱の美しさでした。



ごみの処理を行なう環境資源ギャラリーは、子育て世代に人気スポットの22世紀の丘公園のすぐ横にあります。公園に入る両側はさくらのトンネルです。焼却場の煙突から決して有害物質が出るようなことがあってはなりません。最終処分場も市内です。土壤汚染を起こすようなものを埋め立てるわけにもいきません。

環境日本一を目指すなら、安易によその地域からの産廃を受け入れたり、ごみを減らす努力を怠ることがあってはならない。きれいなさくらのトンネルをくぐり、小鳥のさえずりのシャワーを浴びながら改めて思いました。

夫婦別姓を選べる法制度

今回副市長が女性で通称使用というだけでも「議案と報道の名前が違う」といった問い合わせがきました。

「強制的夫婦同姓制度」は日本特有で、「通称」というものは国際的には基本的に通用しません。調査では、50才未満の女性で現行制度支持はたった12%。

掛川市議会では保守系議員の反対で出せない法整備を求める意見書。全国ではこの1年で約160議会が提出しています。同性婚などを考えれば、多様性を認める事のできないこの制度の欠陥は自明です。

ロシアのウクライナへの侵攻に抗議して毎週末市民アクション

この戦争を世界が平和的に終わらせられるかで今後の国際秩序が変わります。断固とした態度を取り、軍事力ではなく国際世論で解決をする事が重要です。

共産党女性後援会の春の交流会で、大井議員が「遺族会の方が、ロシアの軍隊の遺族は日本の遺族と同様に侵略に加担した遺族になるとお話しされていた」と紹介してくれました。



ドウダンツツジ

戦争は加害国にも被害国にもたくさん死者と遺族、そして憎悪をうむ最悪の愚行です。日本の若者がよその国の人を殺したり、よその国の人から殺される事になりかねない憲法9条の改悪に反対します。